

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立唐桑小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0533 宮城県気仙沼市唐桑町明戸 208-6

E-mail karakuwa-sho@kesenuma.ed.jp

Website http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/

幼児児童生徒数 男子 32名 女子 38名 合計 70名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「豊かな心をもち、ふるさと唐桑を愛する子どもを育てる海洋教育」を通し、「未来に生きる人材育成」に取り組んだ。

具体的には、カキ養殖を中心とした体験活動を通して、唐桑の海の豊かさと人との関わりやつながりを実感し、ふるさと唐桑が今後も持続可能な社会として発展していくことができるよう地域の課題を探求しながら自らの生き方を見つめ、身近なことから自分ができることを実践する力を養った。

(1) 1・2年生「海に親しもう」

サケの稚魚の飼育と放流を体験した。積算温度を毎日記録し、餌を与えるなど友達と協力して活動した。また、唐桑幼稚園と合同で学校近くの浜で磯遊びを行い、一緒に活動することで幼稚園児との交流を深め、自分の成長を実感した。さらに海藻押し葉を作るなど海と親しむ活動を行った。

(2) 3年生「ワカメを知ろう」

地元で養殖されているワカメについて、自分なりの課題をもち、地域の方や外部講師の協力を得て課題解決に取り組んだ。ワカメ工場の見学やワカメ養殖業者との交流を通し、ワカメの生産や加工・販売など地域の産業に従事する人々の努力や工夫を知った。

(3) 4年生「カキの秘密を探ろう」

カキ養殖体験の1年目としてカキの種はさみを体験し、またカキの解剖を通してカキの生態についての理解を深めた。さらに、カキいかだの仕組みを理解するために、地域の方から協力を得てカキいかだの模型を作成し、難しい作業を体験することで地域の人々のカキ養殖に対する苦労や工夫を知った。

(4) 5年生「海と山、自然の関わりを知ろう」

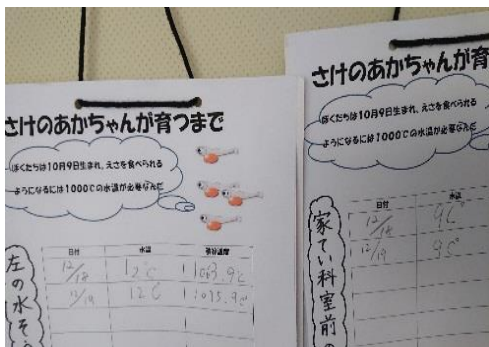
岩手県一関市の山で行われる「森は海の恋人植樹祭」に参加し植樹した。その後、地元のカキいかだの周りにはいるプランクトンを採取して調べ、プランクトンの豊富な海にするためには、その栄養分を作り出す森が必要であることを学んだ。また、森と川と海の実感できるように、気仙沼湾内クルーズを行い川と海が交わる場所を観察した。さらに、唐桑を海側から見ることを通して地域の自然のすばらしさに気付いた。

(5) 6年生「豊かな海を発信しよう」

カキの温湯処理見学やカキの水揚げ、カキむき、定置網起こしを体験した。また、「リアス牡蠣まつり唐桑」に参加してカキの販売を体験し、地域の方との交流を図った。さらに、唐桑のよさをどのような方法で発信するのかを自分たちの課題として捉え、自ら考えたキャラクターとメッセージをオリジナルフォルダーにデザインして発信するとともに、6年間で学んだことを協力してまとめ、様々な場で発表した。

(6) 全校

海に関わる学びの発表とお世話になった方への感謝を伝えるため、全校児童が参加する「リアスサミット in 唐桑」を企画し、海洋教育推進のために支援していただいた地域の方を招いて開催した。自分たちの力で唐桑のよさを地域の方々に発信する場となった。



(1) サケの飼育活動



(3) カキいかだ模型製作



(4) プランクトンの採取



(5) 定置網起こし体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (海洋教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

生活科や総合的な学習の時間を中心に体験学習を実施しながら、問題解決的な学習サイクルに沿って主体的な学習活動を進めた。特に、総合的な学習の時間においては、全体計画に「ESDのテーマと持続可能な社会のために求められる7つの力」を位置付け、ユネスコスクールのテーマとユネスコスクールの交流を通して高める力を明示した。その結果、指導者がユネスコスクールとして児童にどのような力を身に付けさせなければならないのかが明確となり、指導方法の工夫につなげることができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 組織の整備
- ・ 「未来に生きる人材育成」を実現するため、本年度の学校運営の重点に『海と生きる』海洋教育の推進を位置付け、特色ある教育活動の充実を図った。
 - ・ 海洋教育における取組の強化のため、校長のリーダーシップの下、個々の活動と教職員一人一人の役割を確認し合うことで、それぞれが自信と誇りをもち、創意工夫ある海洋教育の実践が進められる体制を整えた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期毎の学校運営反省会において、総合的な学習の時間を中心とした海洋教育についての評価を行い、それをもとに改善策を考えてその後の指導に生かした。また、1月の「リアスサミット in 唐桑」の際に、地域の方や保護者などの参加者から寄せられた感想を今年度の取組についての客観的な評価にとらえ、全職員で共有を図った。校内研修でも取り上げ話し合った結果、児童は体験学習が充実したことで唐桑のよさを十分に感じることはできたが、聞く力や話す力など生き生きと対話し、自分の考えや思いを自分の言葉で伝えることができる力をさらに伸ばす必要があることが明らかになった。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域や保護者の海洋教育への理解が図られるよう、ホームページや地域新聞等において、海洋教育の活動の様子を情報発信した。特に全校体制での海洋教育実践発表会「リアスサミット in 唐桑」においては、地域の方や保護者の方、海洋教育を支えていただいた方を招いて開催し、学びの発表と感謝の気持ちを伝える機会とすることができた。その際、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任講師田口先生から発表会の講評をいただくことができた。学びをまとめる時には、分かったことだけでなく分からないことも明確にすること、また、自分の地域と他の地域を比較し分析することで様々なことを学ぶことなど学びの内容に対する助言をもらえたことは、教職員や児童が新たな視点をもつきっかけとなり、その後の海洋教育を深めていくことにつながった。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

○ 学校支援委員会との連携

様々な活動において実感を伴った理解をさせるために、学校支援委員である唐桑漁協や漁協青年部の地元養殖業者、漁船乗組員OBの海友会の方々から、ワカメやカキ養殖体験で支援を受けた。

○ 唐桑公民館との連携

本校の海洋教育をより地域のよさを生かした学習内容に高めるため、公民館主催行事である「ふるさと学習会」において「森は海の恋人植樹祭」への参加や定置網起こし体験の実施などの協力を得た。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

○ 唐桑幼稚園・唐桑中学校との連携

一つの中学校区としての系統性をふまえた海洋教育にしていくために、唐桑幼稚園や唐桑中学校との連携を深め、情報を共有した。地域の課題を共通認識し、実践内容の系統性を検討することによって、幼稚園は「海に親しむ」、小学校は「海に親しみ、海を知る」、中学校は「海を守り、海を利用する」というねらいを明確にもち取り組んでいく体制を整えた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

6年児童が代表として参加した「海洋教育こどもサミット(岩手県洋野町)」「気仙沼市海洋教育実践発表会」「唐桑町まちづくり発表会」や、本校の児童全員が参加した「リアスサミット in 唐桑」での学びの発信を通して、関係機関や地域の方、保護者に本校の取組のよさを実感してもらうことができ、学校・地域・家庭の協働体制をより強固なものにすることができた。

校内サステイナブルスクール研修会を行い、ホールスクールアプローチデザインシートを全職員で見直し、改善を加えていくことで、個々の役割の明確化と参画意識を高め、海洋教育がよりよい活動となるようにした。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今後は、広島のカキ養殖について調べてみるなど、唐桑と他の地域を比較することにより、唐桑のよさや課題に気づき、多面的総合的に考える力や批判的思考力の向上につなげていきたい。また、唐桑のカキ養殖がフランスのカキ養殖と関わりがあることから、世界的な視点をもった学習も取り入れていきたいと考える。そして、何よりも児童が自分の課題をより明確にもち、主体的にその課題の解決に取り組むことができるように工夫していく必要がある。協力いただいている地域の方々との連絡を密に取って体験活動の充実を図り、また全職員で海洋教育に取り組む体制を整えることで、児童の更なる学びにつなげていきたい。